

SCREEN

VOL.  
**102**

株主通信

SPRING 2017

2017年3月期

第3四半期 決算報告



SCREEN NOW

Fit your needs, Fit your future

期待に応じて、未来を形に…

## JCR(株式会社日本格付研究所)による 当社格付が「BBB」から「BBB+」へ格上げ

JCRによる当社の長期発行体格付が、2016年12月28日付けで従来の「BBB(ポジティブ)」から「BBB+(安定的)」に一段階引き上げられました。JCRでは格付引き上げの主な事由として「半導体洗浄装置市場での高シェア」に加え、「収益・キャッシュフロー創出力の向上」「4期連続の増益」「自己資本の充実・自己資本比率の改善」などを挙げています。

今回の格付引き上げは、発行体である当社グループに対する市場からの信頼性向上の証しであり、今後の資金調達等にも好影響を与えることが予想されます。

## 個人投資家さま向けウェブサイトのご案内

当社グループの歩み、事業領域、強みやこれからの成長戦略などをわかりやすく紹介するウェブサイトを定期的に更新しております。

[www.screen.co.jp/ir/individ/index.html](http://www.screen.co.jp/ir/individ/index.html)

SCREEN 個人投資家 で検索

(注)本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1  
電話075(414)7131 [www.screen.co.jp](http://www.screen.co.jp)  
証券コード7735

SCREEN NOW Vol.102

発行日:2017年3月15日(発行は3月、6月、9月、12月) 発行:広報・IR室

「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。



UD FONT  
by HIRAGINO

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## 収益構造改革も 着実に進んでいます。

代表取締役 取締役社長  
最高経営責任者 (CEO)

垣内 永次

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第3四半期累計の売上高は2,100億円（前年同期比14.9%増）、営業利益は213億円（同42.4%増）とリーマンショック後では最高となりました。この好業績をけん引したのは、SE事業とFT事業です。SE事業では、ファウンドリーの微細化やフラッシュメモリーへの積極投資を受け、四半期では過去最高の648億円の受注高を記録するなど、今後も好調を維持できる見込みです。

終盤に差し掛かった中期3カ年経営計画（以下、中計）の重要課題である収益構造改革は、第3四半期累計の営業利益率が10.2%、第3四半期会計期間では12.4%の高水準となり、中計の目標「10%以上」に向かって順調に推移しています。また、昨年12月に、JCR(株式会社日本格付研究所)が、当社格付けを「BBB+(安定的)」に1段階引き上げられたことは、これまでの業績改善をご評価いただいた結果だと喜ばしく感じております。

今期末の売上予想に関しましては、高水準の受注を踏まえ、前回発表から100億円増の2,940億円、通期営業利益も過去最高の310億円に上方修正しました。これに伴い、配当に関しましても、連結総還元性向25%を目指して、期末配当金を1株あたり5円増配の75円を予定しているほか、足元では20億円を上限に自社株買いも進めております。

次の成長に向けた次期中計スタートを目前に、役員・社員一同、現中計の仕上げに全力で取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

全社 売上高	<b>2,100</b> 億円	全社 営業利益	<b>213</b> 億円
	(前年同期比 14.9% 増)		(前年同期比 42.4% 増)

## セミコンダクターソリューション(SE)事業

売上高	<b>1,423</b> 億円	営業利益	<b>184</b> 億円
	(前年同期比 24.8% 増)		(前年同期比 68.7% 増)

前年同期に比べファウンドリー向けやメモリーメーカー向けの売上が増加しました。地域別では、国内や北米向けは減少しましたが、台湾や中国向けの売上が大幅に増加しました。また、ファウンドリーの微細化投資、フラッシュメモリーへの積極的投資による高水準の受注状況から、下期と通期の売上予想を上方修正しています。

## グラフィックアンドプレジジョンソリューション(GP)事業

売上高	<b>381</b> 億円	営業利益	<b>11</b> 億円
	(前年同期比 15.6% 減)		(前年同期比 49.4% 減)

印刷関連機器については、円高の影響により海外の売上が減少したことに加え、国内の売上も低調であったことから、売上が減少しました。第4四半期以降はPOD装置の販売強化をさらに進め、収益改善を図ります。プリント基板関連機器(PE)の売上は前年同期並みとなりました。なお、PE事業は来期、独立事業会社になり、販売拡大と利益率の引き上げを目指します。

## ファインテックソリューション(FT)事業

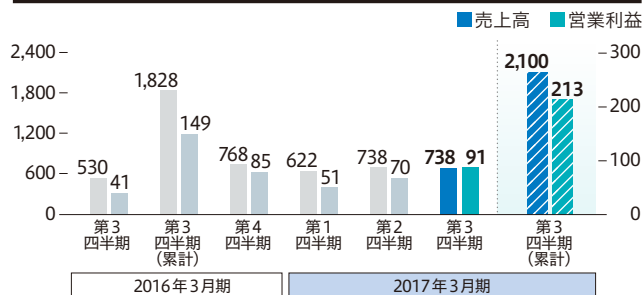
売上高	<b>287</b> 億円	営業利益	<b>29</b> 億円
	(前年同期比 25.9% 増)		(前年同期比 33.5% 増)

中国向けの大型パネル用製造装置の売上は、顧客企業の投資時期の影響から、前年同期に比べ減少しましたが、国内や台湾向けの中小型パネル用製造装置の売上が増加しました。受注環境は、液晶ディスプレイ(LCD)を中心に好調で、有機ELディスプレイ(OLED)関連も含めた新規分野の受注も増加する見込みです。

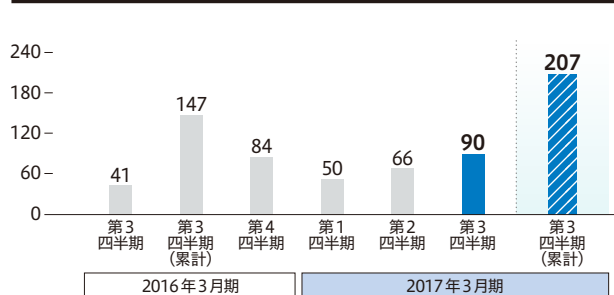
# Highlight 連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

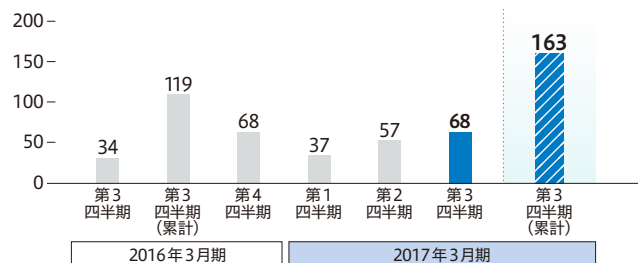
## 売上高・営業利益 (億円)



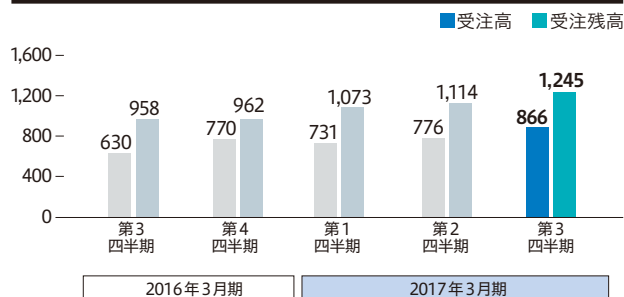
## 経常利益 (億円)



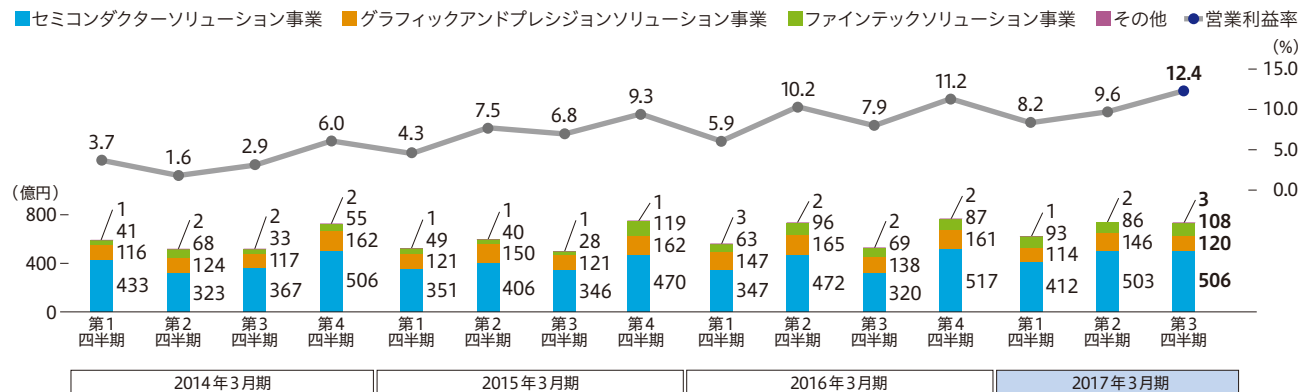
## 親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



## 受注高・受注残高 (億円)



## セグメント別売上高・営業利益率



# Topics

## セミコンダクターソリューション事業

### 半導体の薄型化・低コスト化を実現する 新パッケージ技術対応の露光装置を発売

当社は2017年1月から大型パネル用直接描画露光装置「DW-3000 for PLP」の販売を開始しました。同製品は半導体後工程において注目度が高まっているFOPLP(Fan-Out Panel Level Package)※1に対応する装置で、当社にとっての未開拓市場のシェア拡大を目指します。

独自のiGLV光学エンジン※2とレーザー制御技術の融合により、世界最高水準の2 $\mu$ m解像度を実現するほか、画像解析技術を応用してチップ再配置時の位置ズレを読み込み、露光データを自動的に補正する機能も搭載しています。今後も半導体製造工程の幅広いニーズに応え、スマートフォンやモバイル機器などのさらなる発展に貢献していきます。



大型パネル用直接描画露光装置  
「DW-3000 for PLP」

※1半導体パッケージ技術の一種。ウエハ状で製造するFOWLP(Fan-Out Wafer Level Package)に対し、パネル状の支持体を製造することで薄型化、低コスト化、多ピン化に対応できる。

※2 integrated Grating Light Valve。MEMS(微小電子機械システム)と半導体技術により光の向きや強度を制御する表示素子。

## ファインテックソリューション事業

### 需要が高まる燃料電池市場へ 量産化を加速させる製造装置「RTシリーズ」開発

当社は市場拡大が期待される燃料電池業界に向け、製造装置の新製品「RTシリーズ」を開発しました。

同製品は、コーターデベロッパーで培った技術・ノウハウの活用により、燃料電池の電解質膜に電極触媒を直接塗工し、乾燥させることでロールtoロール方式の連続生産を実現。製造時間の大幅な短縮と生産コスト低減に貢献します。

### 燃料電池市場規模予測

